

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料(小学校, 中学校)

第3編 単元(題材)ごとの学習評価について(事例)

【案】

第1章 「内容のまとめりごとの評価規準」の考え方を踏まえた評価規準の作成

- 1 本編事例における学習評価の進め方について
- 2 単元の評価規準の作成のポイント

第2章 学習評価に関する事例について

- 1 事例の特徴
- 2 各事例概要一覧

事例

## 第1章 「内容のまとめりごとの評価規準」の考え方を踏まえた評価規準の作成

### 1 本編事例における学習評価の進め方について

各教科の単元（題材）における観点別学習状況の評価を実施するに当たり、まずは年間の指導と評価の計画を確認することが重要である。その上で、学習指導要領の目標や内容、「内容のまとめりごとの評価規準」の考え方等を踏まえ、以下のように進めることが考えられる。なお、複数の単元（題材）にわたって評価を行う場合など、以下の方法によらない事例もあることに留意する必要がある。

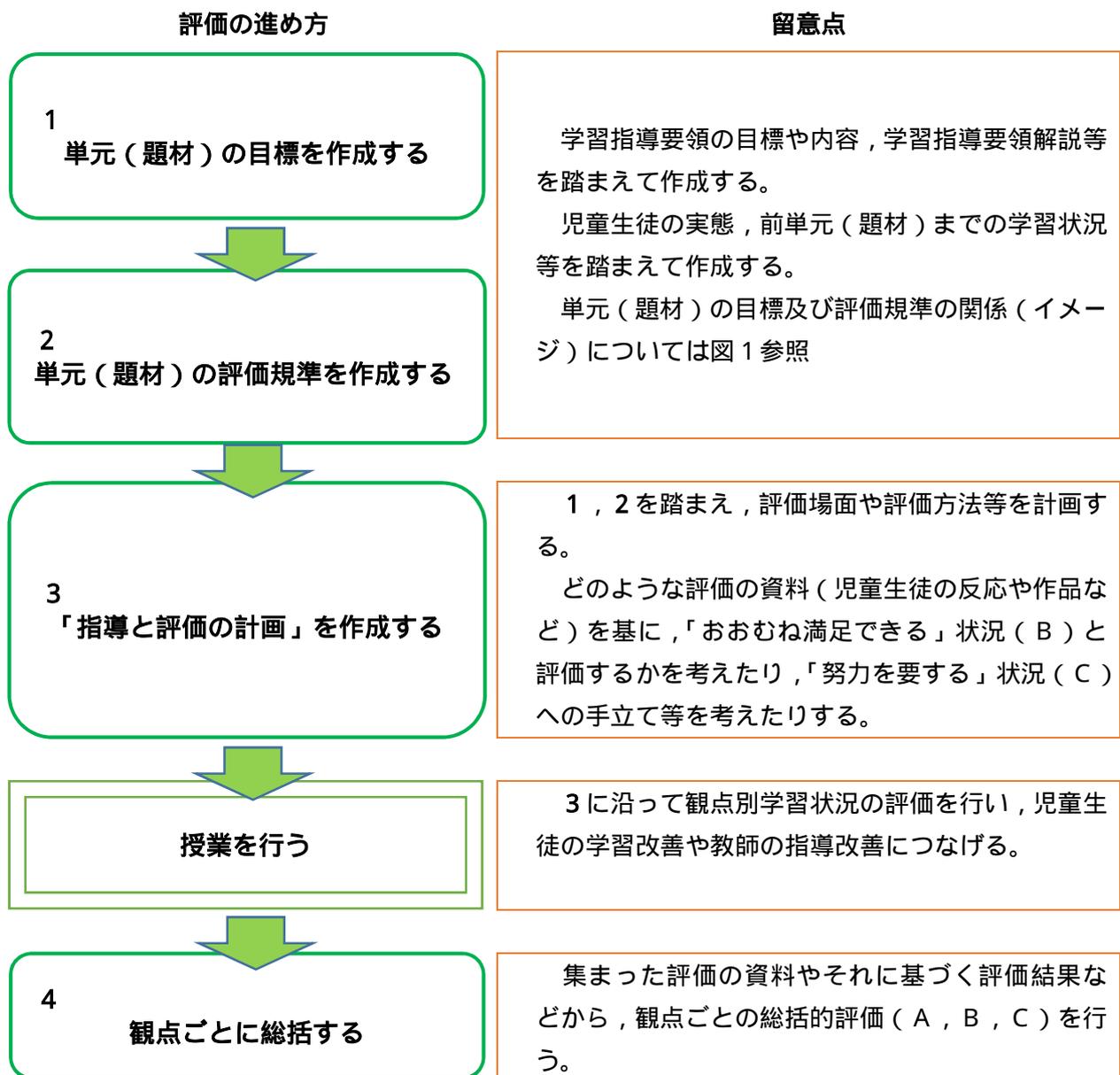
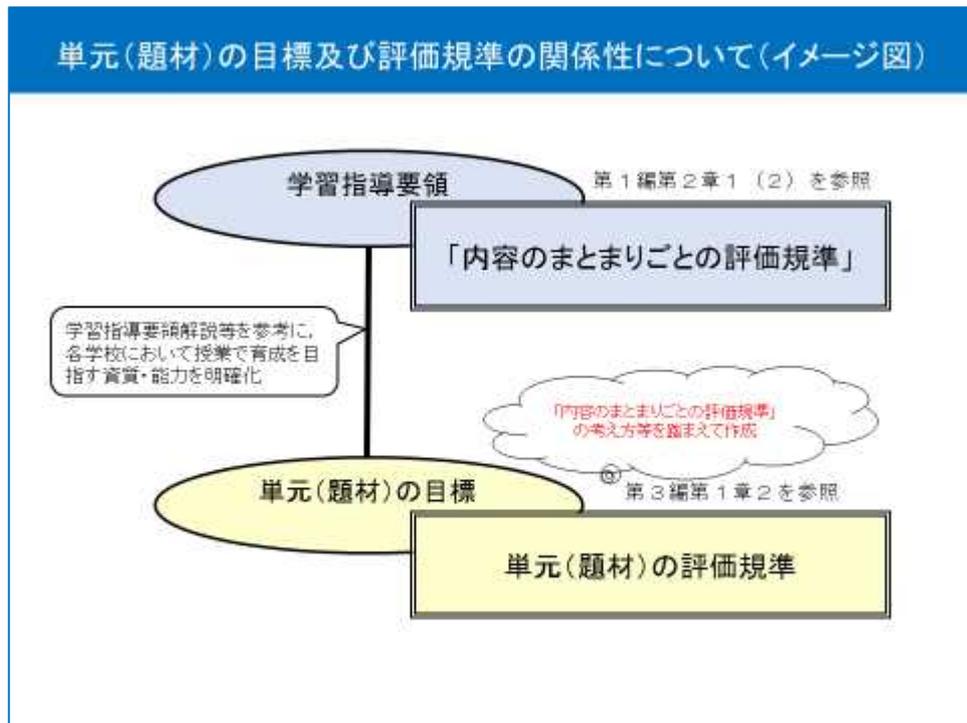


図 1



調整中

## 2 単元の評価規準の作成のポイント

小学校国語科においては、次のような流れで授業を構想し、評価規準を作成する。

<p><b>Step 1</b> 単元で取り上げる 指導事項の確認</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年間指導計画等を基に、単元で取り上げる指導事項を確認する。</li> </ul>
<p><b>Step 2</b> 単元の目標と 言語活動の設定</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Step 1 で確認した指導事項を基に、以下の3点について単元の目標を設定する。             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 「知識及び技能」の目標</li> <li>(2) 「思考力、判断力、表現力等」の目標 (1), (2)については、基本的に指導事項の文末を「～できる。」として示す。</li> <li>(3) 「学びに向かう力、人間性等」の目標 (3)については、いずれの単元においても当該学年の学年の目標である「言葉がもつよさ～思いや考えを伝え合おうとする。」までを示す。</li> </ol> </li> <li>・単元の目標を実現するために適した言語活動を、言語活動例を参考にして位置付ける。</li> </ul>
<p><b>Step 3</b> 単元の評価規準 の設定</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・以下を参考に、単元の評価規準を作成する。             <ul style="list-style-type: none"> <li>「知識・技能」の評価規準の設定の仕方 当該単元で育成を目指す資質・能力に該当する〔知識及び技能〕の指導事項の文末を「～している」として作成する。育成したい資質・能力に照らして、指導事項の一部を用いて作成することもある。</li> <li>「思考・判断・表現」の評価規準の設定の仕方 当該単元で育成を目指す資質・能力に該当する〔思考力、判断力、表現力等〕の指導事項の冒頭に、指導する一領域を「(領域名)において、」と明記し、文末を「～している」として作成する。育成したい資質・能力に照らして、指導事項の一部を用いて作成することもある。</li> <li>「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準の設定の仕方 以下の から の内容を全て含め、単元の目標や学習内容等に応じて、その組合せを工夫することが考えられる。なお、 内の言葉は、当該内容の学習状況を例示したものであり、これ以外も想定される。 粘り強さ 積極的に、進んで、粘り強く等 自らの学習の調整 学習の見通しをもって、学習課題に沿って、今までの学習を生かして等 他の2観点において重点とする内容(特に、粘り強さを発揮してほしい内容) 当該単元の具体的な言語活動(自らの学習の調整が必要となる具体的な言語活動)</li> </ul> </li> </ul>
<p><b>Step 4</b> 単元の指導と評価 の計画の決定</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各時間の具体的な学習活動を構想し、単元のどの段階でどの評価規準に基づいて評価するかを決定する。</li> </ul>
<p><b>Step 5</b> 評価の実際と手立 ての想定</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・それぞれの評価規準について、実際の学習活動を踏まえて、「おおむね満足できる」状況(B)の例、「努力を要する」状況(C)への手立てを想定する。</li> </ul>

(各事例の記載について)

各事例の主な特徴をキーワードで示している。いずれの事例も、3観点の評価について掲載している。

「単元名」は、どのような言語活動を行うのが児童に分かるように工夫している。

該当する指導事項を示すことで、学習指導要領の指導事項との関連を明確にしている。

「単元の評価規準」について、評価する時間及び「おおむね満足できる」状況(B)の評価方法を示している。

本実践において、どのように学習を評価したのか、その実際を「観点別学習状況の評価の進め方」として詳しく説明している。

**国語科 事例1**  
キーワード 「指導と評価の計画から評価の総括まで」

<b>単元名</b> 夏休みの思い出を組合しよう 第2学年 A話すこと・聞くこと	<b>内容のまとまり</b> 第2学年 (体験及び体験)の児童の体験や思い方に関する事項 (思考力、判断力、表現力等)「A話すこと・聞くこと」
--	--

1 単元目標  
 (1) 身近なことを表す語句の量を増し、話の中で使うとともに、語彙を量加にすることができる。 [知識及び技能] (1)オ  
 (2) 相手にわかるように、行なったことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考へることができる。 [思考力、判断力、表現力等] △(1)イ  
 (3) 話し手が知らせたいことを客とさないように聞き、話の内容を捉えて感想をもつことができる。 [思考力、判断力、表現力等] △(1)エ  
 (4) 言葉がもつよさを感ずるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切にして、思いや考へを伝え合おうとする。 [学びに向かう力、人間性等]

2 単元で取り上げる言語活動  
 夏休みの思い出について報告したり、それらを聞いて感想を記述したりする。  
 [関連：言語活動例ア]

3 単元の評価規準

知識・技能	思考、判断、表現	主体的に学習に取り組む態度
① 身近なことを表す語句の量を増し、話の中で使っていると同時に、語彙を量加にしている。 [(1)オ]	① 「話すこと・聞くこと」において、相手にわかるように、行なったことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考へている。 [△(1)イ] ② 「話すこと・聞くこと」において、話し手が知らせたいことを客とさないように聞き、話の内容を捉えて感想をもっている。 [△(1)エ]	① 進んで、相手にわかるように話す事柄の順序を考へ、学習の見直しをもつて報告しようとしている。

4 指導と評価の計画 (全7時間)

時	学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法等
1	○ 夏休みの思い出を報告するという学習の見通しをもつ。 ○ 夏休みの思い出を複数想起し、その中から友達に一番報告したいことを選ぶ。	・ 児童の伝えたいという思いを引き出したり、教師が自身の思い出を紹介したりして、学習への意欲を高め、学習の見通しがもてるようにする。 ・ 夏休みの思い出の中から伝えたい思いの強さを手掛かりにして、一つを選ぶようにする。	[知・技①] カード ・ 事物を表す言葉、経験したことを表す言葉、色や形を表す言葉の文意に合った活用状況の確認

はじめる	進む	止まる	戻る	はなす	おわる
------	----	-----	----	-----	-----

(略)

5 観点別学習状況の評価の進め方  
 ここでは、夏休みの思い出を報告する学習における「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の評価の事例を紹介する。本事例では、以下に示すワークシートの①～③を用いた。

① グループ内で報告を聞いた感想を書く。

② アの位置に並べた順序について交換と交換する。  
 ③ 交換した後、並び順を見直してウの位置にカードを貼る。  
 ④ 並び順を見直した理由について丁の位置の状況出しを書く。

① カードをアの位置に並べる。  
 ② 並べた順序の理由をイの位置の状況出しに書く。  
 ③ 並べたカードの内容をアの位置に書きます。

ワークシート①

ワークシート②

ワークシート③

## 第2章 学習評価に関する事例について

### 1 事例の特徴

第1編第1章2(4)で述べた学習評価の基本的な方向性を踏まえつつ、平成29年改訂学習指導要領の趣旨・内容の徹底に資する評価の事例を示すことができるよう、本参考資料における各教科の事例は、原則として以下のような方針を踏まえたものとしている。

単元(題材)に応じた評価規準の設定から評価の総括までとともに、児童生徒の学習改善及び教師の指導改善までの一連の流れを示している

本参考資料で提示する事例は、いずれも、単元(題材)の評価規準の設定から、最終的に学習過程で得た評価情報を総括するまでとともに、評価結果を児童生徒の学習改善や教師の指導改善に生かすまでの一連の学習評価の流れを念頭においたものである。なお、各教科とも事例の一つは、この一連の流れを特に丁寧に示している。

観点別の学習状況について評価する時期や場面の精選について示している

報告や改善等通知では、学習評価については、日々の授業の中で児童生徒の学習状況を適宜把握して指導の改善に生かすことに重点を置くことが重要であり、観点別の学習状況については、毎回の授業ではなく原則として単元や題材など内容や時間のまとまりごとに、それぞれの実現状況を把握できる段階で行うなど、その場면을精選することが重要であることが示された。このため、観点別の学習状況について評価する時期や場面の精選について、「指導と評価の計画」の中で、具体的に示している。

評価方法の工夫を示している

各教科・科目の評価の中で、ワークシートや作品などの評価材料をどのように活用したかなど、教科の特性に応じて、評価方法の多様な工夫について示している。

## 2 各事例概要一覧

**事例1** キーワード 指導と評価の計画から評価の総括まで

「夏休みの思い出を報告しよう」(第2学年)

第2学年〔思考力, 判断力, 表現力等〕の「A話すこと・聞くこと」(1)イ・エを, 夏休みの思い出を報告するという言語活動を通して指導した実践における評価事例を紹介する。

本事例では, 小学校国語科における指導と評価の基本的な考え方について概説する。

**事例2** (作成中)

**事例3** (作成中)

**事例4** (作成中)

なお, いずれの事例も, 授業の一連の流れを示した上で, 評価の3観点(「知識・技能」, 「思考・判断・表現」, 「主体的に学習に取り組む態度」)について, 「おおむね満足できる」状況(B), 「努力を要する」状況(C)への手立ての例を示している。

国語科 事例 1

キーワード 「指導と評価の計画から評価の総括まで」

単元名

夏休みの思い出を報告しよう  
第2学年 A話すこと・聞くこと

内容のまとめり

第2学年  
〔知識及び技能〕(1)言葉の特徴や使い方に関する事項  
〔思考力、判断力、表現力等〕「A話すこと・聞くこと」

1 単元の目標

- (1) 身近なことを表す語句の量を増し、話の中で使うとともに、語彙を豊かにすることができる。〔知識及び技能〕(1)オ
- (2) 相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考えることができる。〔思考力、判断力、表現力等〕A(1)イ
- (3) 話し手が知らせたいことを落とさないように聞き、話の内容を捉えて感想をもつことができる。〔思考力、判断力、表現力等〕A(1)エ
- (4) 言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切にしてい、思いや考えを伝え合おうとする。 「学びに向かう力、人間性等」

2 単元で取り上げる言語活動

夏休みの思い出について報告したり、それらを聞いて感想を記述したりする。

(関連：言語活動例ア)

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
身近なことを表す語句の量を増し、話の中で使っていると同時に、語彙を豊かにしている。( (1)オ )	「話すこと・聞くこと」において、相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考えている。( A(1)イ ) 「話すこと・聞くこと」において、話し手が知らせたいことを落とさないように聞き、話の内容を捉えて感想をもっている。( A(1)エ )	進んで、相手に伝わるように話す事柄の順序を考え、学習の見通しをもって報告しようとしている。

4 指導と評価の計画（全7時間）

時	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点	評 価 規 準 ・ 評 価 方 法 等												
1	<p>夏休みの思い出を報告するという学習の見通しをもつ。</p> <p>夏休みの思い出を複数想起し,その中から友達に一番報告したいことを選ぶ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 児童の伝えたいという思いを引き出したり,教師が自身の思い出を紹介したりして,学習への意欲を高め,学習の見通しがもてるようにする。</li> <li>・ 夏休みの思い出の中から伝えたい思いの強さを手掛かりにして,一つを選ぶようにする。</li> </ul>													
2 ・ 3 ・ 4	<div data-bbox="252 651 1123 1003" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 20%; text-align: center; border: 1px solid black;">おわり</td> <td style="width: 20%;"></td> <td style="width: 20%; text-align: center; border: 1px solid black;">な　　か</td> <td style="width: 20%;"></td> <td style="width: 20%; text-align: center; border: 1px solid black;">はじめ</td> <td style="width: 20%;"></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ぜんたいをおもったことおし</li> </ul> </td> <td style="border: 1px solid black; text-align: center; vertical-align: middle;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ かんじたこと</li> </ul> </td> <td style="border: 1px solid black; text-align: center; vertical-align: middle;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ したこと</li> </ul> </td> <td style="border: 1px solid black; text-align: center; vertical-align: middle;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ みたこと</li> </ul> </td> <td style="border: 1px solid black; text-align: center; vertical-align: middle;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ きこえたこと</li> </ul> </td> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ どうした</li> <li>・ だれと</li> <li>・ どこで</li> <li>・ いつ</li> </ul> </td> </tr> </table> <p style="text-align: right; margin-right: 20px;">はなしのくみため</p> </div> <p>「始め - 中 - 終わり」といった話の構成で話すことを確認し,「始め」と「終わり」については先にノートに記述する。</p> <p>○「中」の部分については,第1時で選んだ一番報告したい思い出を詳しく想起して,必要な事柄を四つから六つ程度カードにそれぞれ書き出す。</p> <p>カードの種類(例)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ みたこと</li> <li>・ したこと</li> <li>・ かんじたこと</li> </ul> <p>夏休みの思い出を友達に報告するためにはどのような順序で話したらよく伝わるかを考えながら,ワークシート の該当箇所にカードを置き,その理由を書く。</p> <p>ワークシート 参照</p> <p>友達と交流した上で,カードの並び順を見直し,その順序で報告しようと思つた理由をワークシートに書く。</p> <p>ワークシート 参照</p>	おわり		な　　か		はじめ		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ぜんたいをおもったことおし</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ かんじたこと</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ したこと</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ みたこと</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ きこえたこと</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ どうした</li> <li>・ だれと</li> <li>・ どこで</li> <li>・ いつ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 上の図にあるように,「始め」には,「いつ・どこで・だれと・どうした」を,「終わり」には,「全体を通して思ったこと」をそれぞれ一文程度で記述できるようにする。</li> <li>・ 選んだ思い出を詳しく想起できるように,日記や写真等を基に,経験や行動を振り返るよう助言する。</li> <li>・ 事物の内容を表す言葉,経験したことを表す言葉,色や形を表す言葉を確認し,カードの中で必ず用いるよう指導する。</li> <li>・ 物事や対象についてどのような順序で説明すると伝わりやすくなるか(例えば,経験した順に並べるなどの時間的な順序,感動の大きかったことの順に並べるなどの事柄の順序)について例を示す。</li> <li>・ 友達が並べたカードの順序と比べてみたり,友達と相談をしたりしながら,並べる順序を考えるよう促す。</li> <li>・ 最初の並び順から交流後に決めた並び順になった過程</li> </ul>	<div data-bbox="1150 658 1428 1014" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>[ 知 ・ 技 ]</p> <p><u>カード</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事物を表す言葉,経験したことを表す言葉,色や形を表す言葉の文意に沿った活用状況の確認</li> </ul> </div> <div data-bbox="1150 1048 1428 1290" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>[ 思 ・ 判 ・ 表 ]</p> <p><u>ワークシート</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ カードの並び順とその順序にした理由の確認</li> </ul> </div> <div data-bbox="1150 1323 1428 1644" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>[ 主 ]</p> <p><u>観察 ・ ワークシート</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 友達や教師との関わりを通して並び順を見直している様子の確認</li> </ul> </div>
おわり		な　　か		はじめ											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ぜんたいをおもったことおし</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ かんじたこと</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ したこと</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ みたこと</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ きこえたこと</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ どうした</li> <li>・ だれと</li> <li>・ どこで</li> <li>・ いつ</li> </ul>										

		を振り返り，交流後の並び順に決定した理由を書くことができるようにする。	
5 ・ 6 ・ 7	<p>○声に出して，夏休みの思い出について報告する練習をする。</p> <p>グループ内で夏休みの思い出について報告し合い，質問する。報告が終わったら，ワークシート に感想を書く。 ワークシート 参照</p> <p>夏休みの思い出を報告するという学習を通して学んだことを振り返る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>互いの話し方（声の大きさや速さ）について，特に良いと思ったところを伝え合うようにする。</li> <li>グループ編成に際しては，前時で交流していなかった児童に報告できるよう配慮する。</li> <li>聞き手は，話し手が伝えたいことを落とさないように聞き，その内容を踏まえて自分が感じたことをワークシートの感想欄に記述するように指導する。</li> <li>本単元の目標に則して身に付いたこと，今後の学習や生活の中で生かしていきたいことについて記述できるように助言する。</li> </ul>	<p>[ 思・判・表 ] ワークシート</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>友達の報告に対する感想についての記述の確認</li> </ul>

### 5 観点別学習状況の評価の進め方

ここでは，夏休みの思い出を報告する学習における「知識・技能」，「思考・判断・表現」，「主体的に学習に取り組む態度」の評価の事例を紹介する。本事例では，以下に示すワークシート ～ を用いた。

グループ内で報告を聞いた感想を書く。

アの位置に並べた順序について友達と交流する。交流した後，並び順を見直してウの位置にカードを貼る。並び順を見直した理由についてエの位置の吹き出しに書く。

カードをアの位置に並べる。並べた順序の理由をイの位置の吹き出しに書く。並べたカードの内容をアの位置に書き写す。

かんそう

なつ休みの思い出で感じた「楽しいこと」「面白いこと」「かえなかつたこと」について書いておきたことをかきましよう

( )

( )

( )

( )

ワークシート

<見直したあと>

ここにカードをはりましよう

ウ

↓

エ

どうしてカードのじゆんじよをかえたのか，かえなかつたのか，りゆうをかきましよう

このなをどうしてこのじゆんじよにかいておきたのか

ワークシート

<さいしょ>

ここにカードを並べてみましよう

ア

↓

イ

なつ休みの思い出についてかいたカードをならべましよう

アの位置に並べた理由をイの位置の吹き出しに書いておきたこと

ワークシート

(1)「知識・技能」の評価

【知識・技能】身近なことを表す語句の量を増し，話の中で使っているとともに，語彙を豊かにしている。(第2・3・4時)

【知識・技能】は、「なか」の部分として書き出したカードの記述内容から評価した。

ここでは，夏休みの思い出を伝えるための語彙を豊かにすることを目指して，事物の内容を表す言葉，経験したことを表す言葉，色や形を表す言葉を活用して自分の伝えたいことが明確になるように指導する。

この場面において，文意に沿って不自然にならないように気を付けながら，見たことやしたことのそれぞれの観点に合わせて言葉を用いている児童を「おおむね満足できる」状況(B)とした。

具体的には，児童1は右に示す図1のように，事物の内容を表す言葉として「いわば」，「あわ」など，経験したことを表す言葉として「およいだ」，「つかまえる」など，色や形を表す言葉として「青かった」，「ほしの形」などの言葉を用いている。そのため，指導内容が踏まえられていると判断し，「おおむね満足できる」状況(B)にあると評価した。

一方，夏休みの思い出を表現するために事物の内容を表す言葉，経験したことを表す言葉，色や形を表す言葉のいずれかが活用できなかった児童は「努力を要する」状況(C)と判断した。その場合，教師が当該児童の夏休みの思い出に合わせて，具体的な表現の例をいくつか示すようにした。

なお，見たことやしたことについて思ったことや考えたことを加えていたり，様子を表す言葉を用いたりしている児童は「十分に満足できる」状況(A)と評価した。

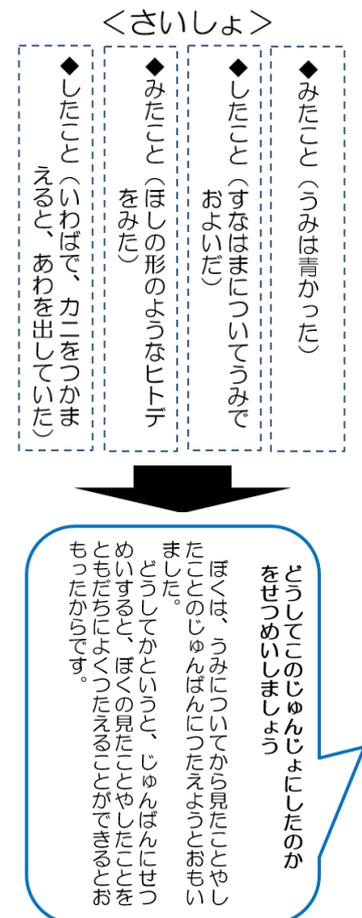


図1：児童1がワークシートに並び順を書き写したもの

(2) 思考・判断・表現の評価

【思考・判断・表現】相手に伝わるように，行動したことや経験したことに基づいて，話す事柄の順序を考えている。(第2・3・4時)

【思考・判断・表現】話し手が知らせたいことを落とさないようにして聞き，話の内容を捉えて感想をもっている。(第5・6・7時)

【思考・判断・表現】は，話す事柄が書かれたカードを操作している様子を観察したり，どのような意図に基づいて操作をしているのかを児童に質問したりして評価した。しかし，一斉に活動している全児童の様子を一人の教師で把握するのは困難であるため，そのように決めた理由をワークシート「イ」に記述させ，その内容を評価の主な対象とした。

ここでは、夏休みの思い出を友達に報告するために、物事や対象についてどのような順序(時間的な順序や事柄の順序)で説明すると伝わりやすくなるか指導を行った。その際、時間的な順序や事柄の順序に基づいてカードを操作したり、それを踏まえてワークシート「イ」に感想を記述したりすることが実現できていると判断できた児童を「おおむね満足できる」状況(B)とした。

具体的には、児童1は、ワークシート「イ」に書かれているように、時間的な順序に沿ってカードを並べる順番を決めていることが判断できるため「おおむね満足できる」状況(B)であると評価した。

一方、時間的な順序や事柄の順序に沿ってカードを並べることができなかったために、「努力を要する」状況(C)と判断した児童には、カードに書いた事柄から、これを夏休みの思い出にした理由を想起させ、相手に伝えたい内容を絞り込むように指導した。

なお、順番を考える際に、時間的な順序や事柄の順序を考えるとともに、聞き手に与える印象や効果まで含めた理由を記述している児童を「十分に満足できる」状況(A)とした。

【思考・判断・表現】は、ワークシートし手が実際に話した内容と照らし合わせながら評価を行った。ここでは、話を聞く際に、「話し手が伝えたいことを落とさないように聞くこと」、「感想を記述すること」の2点を指導している。そのため、話し手が伝えたい夏休みの思い出を正確に聞き取り、その内容を踏まえた感想を記述していると判断できた児童を「おおむね満足できる」状況(B)とした。

具体的には、図2に示した児童2が書いた感想からは、「たろうさん」が夏休みの思い出として海に行ったことを取り上げたことや、さらにその中でも「カニ」の具体的な様子や「ヒトデ」を見たことなどを正確に聞き取っていることが分かる。

また、「わたしも、うみにいきたくなりました」と、話の内容を踏まえて自分の感想を記述していることから、「おおむね満足できる」状況(B)と評価した。

一方、「努力を要する」状況(C)と判断した児童には、報告があった内容について話し手に質問して確認するように促し、また、「おもしろそう」、「たのしそう」などの言葉を例示し、自分の気持ちに合う言葉を選んで表現できるようにした。

なお、話の内容を踏まえて、自分がこれまで経験したことと関連付けながら感想を述べている児童を「十分に満足できる」状況(A)とした。

の記述を通して評価した。その際、話

ま	ま	わ	よ	が		
し	し	ろ	う	き	い	た
た	と	う	う	よ	て	ら
た	そ	っ	さ	く	、	う
し	れ	う	す	わ	か	さ
も	か	き	は	り	み	ん
、	ら	ま	な	ま	の	な
う	ま	し	は	し	だ	つ
み	す	た	っ	た	い	け
に	な	。	け	ん	け	ん
い	は	き	ん	た	し	お
き	ま	が	た	た	も	い
た	で	よ	の	カ	し	た
く	お	い	た	ニ	こ	と
な	よ	だ	た	の	を	
り	か	り				

図2：ワークシートで児童2が書いた感想

(3) 「主体的に学習に取り組む態度」の評価

【主体的に学習に取り組む態度】進んで、相手に伝わるように話す事柄の順序を考え、学習の見通しをもって報告しようとしている。  
(第2・3・4時)

【主体的に学習に取り組む態度】は、実際にカードを並べている様子(発言・行動)の観察やワークシート「エ」の記述内容から評価した。

低学年段階の児童にとって自らの学習を調整することは困難なことであるが、上学年において実現できるように、その基礎を少しずつ築いていく必要がある。

そのため、本單元においては「聞き手に伝えたい」、「これを伝えたい」という思いを実現させるために、一人一人の児童が友達や教師との関わりの中で自身の学びを見つめて、それをより良くするために試行錯誤を図れるようにしてきた。例えば、話す事柄の順序を考える際には、カードの並べ方について友達に相談している様子が確認できた児童を「おおむね満足できる」状況(B)とした。

具体的には、児童1は、最初は海に着いてからしたことを順に報告しようとしていたが、友達のカードと見比べてカードを入れ替えようとしていることが右に示す図3の記述から確認できるため、「おおむね満足できる」状況(B)と評価した。ただし、ワークシート「エ」の記述だけでは並び順を検討しようとしている様子が十分確認できない児童については、必要に応じて問いかけて記述の理由を確認しながら評価することも大切である。

一方、友達や教師との関わりを通して、カードの並び順を検討しようとしている様子が確認できなかった児童は「努力を要する」状況(C)と判断した。教師は、「他の並び順と比べてみたか」、「どのような並び順が分かりやすいのか」、「どのようなことが心に残っているのか」について問いかけ、カードの並び順の工夫に留意させるようにした。

なお、カードの並び順について、自分の経験を振り返りながら友達の助言を参考に試行錯誤していた児童を「十分に満足できる」状況(A)とした。

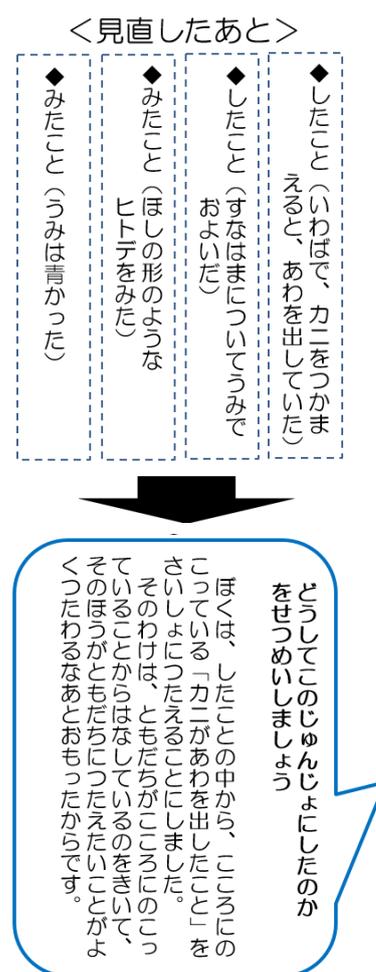


図3：ワークシートに児童1が書いた順序についての説明

### 6 観点別学習状況の評価の総括

「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の評価の中で記録に残すものについては、単元の評価規準に基づき、「4 指導と評価の計画」に示した時間や学習活動のまとめりごとに、その実現状況を見ていく。その上で、時間や学習活動のまとめりごとに行った評価結果を総括する。

本單元では、まず、児童の学習状況を把握する際に、観点ごとの評価の規準に照らし「おおむね満足できる状況」(B)と判断する状況の例を踏まえ、評価メモ(表1参

照)を作成した。評価メモには、評価の観点、単元の評価規準、時間、評価方法、評価等について記載する欄を設け、一人一人の児童の実現状況を確認・記録できるようにしている。

評価規準に照らし、「おおむね満足できる状況」(B)にあると判断した児童については、「評価」欄に「B」と記録している。また、「おおむね満足できる状況」(B)と判断した児童のうち、さらに質的な高まりや深まりが見られた児童は、「十分満足できる状況」(A)と判断し、「評価」欄に「A」と記録している。「努力を要する状況」(C)にあると判断した児童がいる場合には、「評価」欄に「C」と記録するとともに、その児童が「おおむね満足できる状況」(B)を実現するために教師が行った指導について備考欄に付記することも考えられる。

そして、「単元における評価」欄には、単元の学習を終えた時点で児童がどのような状況にあるのかを記録している。

単元の中で重点的に指導し評価する指導事項については、該当する「単元の評価規準」欄に印を記載しており、「思考・判断・表現」については、単元における観点別学習状況の総括を行っている。例えば、児童2は表1の「単元の評価規準」欄を踏まえ、「思考・判断・表現」の単元における評価を「十分満足できる状況」(A)と総括した。

表1 「評価メモ」の例

評価の観点		知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
単元の評価規準 (印は重点)			単元 に お け る 評 価	( )			単元 に お け る 評 価
時 間		2・3・4		2・3・4	5・6・7	2・3・4	
評価方法		カード		ワークシート	ワークシート	観察・ ワークシート	
評 価	児童1	B	B	B	B	B	B
	児童2	B	B	A	B	B	B
				聞き手に伝えるための効果的な表現について記述あり。			
	児童3	A	A	A	A	A	A
		見たことやしたことについて思ったことを加えていたり、様子を表す言葉を用いたりしている。		聞き手に与える印象の記述あり。	自分の経験と関連付けた感想あり。	友達の並び順について助言あり。	

## 7 「年間指導計画」に基づいた評価の系統化・重点化

国語科においては、一つの指導事項を年間で複数回繰り返し取り上げて指導することが多い。それは国語科の指導内容が螺旋的・反復的に繰り返しながら能力の定着を図ることを基本としているからである。そのため、年間を見通して当該単元の指導目標や単元の評価規準を設定することが重要になる。

本事例は、第2学年「A話すこと・聞くこと」の年間指導計画表（表2参照）に基づいて作成した。この表では、縦軸に指導事項を示し、横軸に単元名を示している。指導事項の 印は、当該単元で指導し評価する内容を表し、 印は、特に重点的に指導し評価する内容を表している。例えば、本単元では、表2に示す「思考・判断・表現」のイ及びエを評価することとしており、そのうちイの指導事項を重点的に指導し、評価することになっている。ア、ウ及びオについては、前後の単元において評価を計画的に位置付けている。なお、「知識・技能」については、「B書くこと」、「C読むこと」の指導においても位置付けている。そのため、全体を一覧することができる年間指導計画表の作成が必要である。

本事例では、単元において取り上げる指導事項のうち、重点的に指導し評価する事項を設定し、評価の総括を行う事例を示したが、総括の方法としては様々なものが考えられることに留意する必要がある。（第1編第2章1（5）も参照のこと。）

表2 「年間指導計画表」の例 (第2学年「A話すこと・聞くこと」の一部を抜粋)

		No	1	2	3	4	5
第2学年		単元名			夏休みの思い出を報告しよう		
		指導事項・言語活動例					
		授業時数	6	7	7	7	8
〔知識及び技能〕	(1)	ア	言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。				
		イ	音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話すこと。				
		ウ	長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ(「」)の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。				
		エ	第1学年においては、別表の学年別漢字配当表(以下「学年別漢字配当表」という。)の第1学年に配当されている漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使うこと。第2学年においては、学年別漢字配当表の第2学年までに配当されている漢字を読むこと。また、第1学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、第2学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。				
		オ	身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにすること。				
		カ	文の中における主語と述語との関係に気付くこと。				
		キ	丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気を付けて使うとともに、敬体で書かれた文章に慣れること。				
	ク	語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。					
	(2)	ア	共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解すること。				
	(3)	ア	昔話や神話・伝承などの読み聞かせを聞くなどして、我が国の伝統的な言語文化に親しむこと。				
		イ	長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気付くこと。				
		ウ	書写に関する次の事項を理解し使うこと。 (ア) 姿勢や筆記具の持ち方を正しくして書くこと。 (イ) 点画の書き方や文字の形に注意しながら、筆順に従って丁寧に書くこと。 (ウ) 点画相互の接し方や交わり方、長短や方向などに注意して、文字を正しく書くこと。				
	エ	読書に親しみ、いろいろな本があることを知ること。					
	〔思考力、判断力、表現力等〕	(1)	ア	身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。			
イ			相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考えること。				
ウ			伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫すること。				
エ			話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもつこと。				
オ			互いの話に関心をもち、相手の発言を受けて話をつなぐこと。				
言語活動例	(2)	ア	紹介や説明、報告など伝えたいことを話したり、それらを聞いて声に出して確かめたり感想を述べたりする活動。				
		イ	尋ねたり応答したりするなどして、少人数で話し合う活動。				
		(上記以外の言語活動)					

